

第31回日本証券アナリスト大会を終えて

大会実行委員長 許 斐

潤 CMA
(野村證券)

第31回日本証券アナリスト大会は、10月14日（金）に経団連会館の国際会議場・ホールにて開催された。今大会の延べ参加者総数は講演会・パネルディスカッション及び懇親パーティーも含めると、1,000名を超える大勢の方々にご参加いただいた。まずは、当日、大会会場にお運びいただいた皆さまに、あつくお礼を申し上げたい。

筆者は、昨年も第30回日本証券アナリスト大会に、実行副委員長として開催のお手伝いをさせていただいたが、昨年末に事務局より、他の委員の皆さんとともに引き続き実行委員会の任に当たるよう要請され、お引き受けした。年明け後、事務局から実行委員内定者向けに大会の形式、テーマ、講演者候補に関するアンケート調査が実施された上で、2月に第1回の実行委員会が開催された。その席で事務局からの推薦により、筆者が実行委員長の大命を拝することとなった。筆者にとっては大変な名誉であり、また前年の三浦委員長の下で行われた第30回大会が非常な成功を取ただけに大いに身の引き締まる思いであった。

さて、上述のアンケート調査では国家としての成長戦略、企業戦略、昨年に引き続きガバナンス論から証券市場論まで多様なテーマが提案され、実行委員会での議論となった。議論の過程でキー



総合司会の許斐大会実行委員長

ワードとして戦略&イノベーションを核とする、アナリストの役割を盛り込むことでアナリスト大会としての独自性を打ち出すことまで合意し、具体案に関しては実行委員長・副委員長、事務局に一任となった。

他方、事務局が過去の交渉経緯を踏まえ、記念講演Ⅱをお願いした三菱ケミカルホールディングスの小林喜光取締役会長からご参加の内諾を得ていたため、委員長・副委員長と事務局では大会テーマとして技術的な側面を重視すべきと考え、先の実行委員会で議論した内容も踏まえて、今年度の大会テーマを「AI・IoT革命に挑戦する企業とアナリスト」とした。

並行して、事務局が中心となって登壇者の人選・折衝を重ねた結果、4月頃までにはほぼご講演者、パネルディスカッションご参加者、モデレーターのめどがついた。冒頭で触れた今大会盛況の要因は、実行委員会の中でタイムリーな大会テーマにつながる議論ができたこと、及び協会事務局・大会担当者の精力的な折衝により、テーマに即し、また魅力的な登壇者を早い段階で固められたことが大きいと思われる。

実際の講演会やパネルディスカッションの内容は、別稿に記載されているので、本稿で講演やパネルの内容を要約することは省略する。あえて筆者の印象を何点か述べておきたい。記念講演Ⅰをお願いした東京大学大学院の柳川範之教授は、「AI・IoTは経済構造をどう変えるのか」という演題で、文字通りAI・IoTの経済への影響を俯瞰していただいた。その上で、AI時代のアナリストの将来像、教育変革の重要性にまで言及いただき、大変唆に富むお話となった。

記念講演Ⅱは、「AI・IoT革命とKAITEKI会社・SAITEKI社会」と題し、株式会社三菱ケミカルホールディングスの小林会長をお願いした。小林会長はまず、資本効率、サステナビリティと並んで技術を重視する三軸による企業価値を提唱された。その上で一企業を超えて国家価値、「国家百年の計」を論じられた会長の姿に、産業界を超越した志士の気概を感じ取ったのは筆者だけではない。

パネルディスカッションは、パネラーの皆さまの個性が良い意味で炸裂の連鎖反応を生んだ、大変刺激的なものであった。ご登壇いただいたのはBTジャパン株式会社の吉田晴乃代表取締役社長、CYBERDYNE株式会社の山海嘉之代表取締役社長、株式会社ZMPの谷口恒代表取締役社長のお三方と、個性と個性のぶつかり合いを見事に仕切

られたモデレーターのBNPパリバ証券株式会社投資調査本部長の中空麻奈チーフクレジットアナリストだった。パネルのテーマは「AI・IoT革命に挑戦する企業とアナリスト」とされた。マネージド・ネットワークITサービス (BTジャパン)、革新的サイバニクスシステム (CYBERDYNE)、自律移動技術 (ZMP) と、それぞれ極めて技術的要素の強い事業を展開されたいながら、議論の内容は技術論、経営論にとどまらず、歴史観、時代認識、社会制度、国際連携、宗教・芸術、平和・倫理、人間の感性にまで及ぶ非常に広く、深いものであった。全体として、技術の進展を活用しながら、技術進化の否定的側面を乗り越え、前向きな取組みを勧める強いメッセージを感じ取った。

パネルディスカッションの後は、証券アナリストジャーナル賞の表彰があり、更に筆者がディスクロージャー研究会座長としてディスクロージャー優良企業選定結果の報告を行った。筆者はアナリスト協会の業務として、ディスクロージャー研究会座長に加え、産業研究会座長、同技術部会・部会長も兼務している。

今年のアナリスト大会は、大勢の方々にご来場いただき、成功を取めたと総括できよう。まず、ご講演いただいた東京大学大学院の柳川先生、三菱ケミカルホールディングスの小林会長に感謝申し上げます。更に、パネルディスカッションに参加していただいたBTジャパンの吉田社長、CYBERDYNEの山海社長、ZMP谷口社長、モデレーターの中空氏に改めて謝意を表したい。

大切なことが最後になってしまったが、大場会長はじめ関係者の皆さま、特に大会運営のための貴重な提案を頂き、当日もそれぞれの役割を果たしていただいた実行委員各位、更に黒子として大会を支えていただいた事務局の方々には心からお礼を申し上げて、ご挨拶とさせていただきます。